

ひろしまの 土地改良

2012年
第228号



第9回ひろしまの農村フォトコンテスト入賞作品 「とんどの日」 今田 昌克

Contents

新年のごあいさつ

水土里ネットひろしま会長 羽田 皓

新年のごあいさつ

広島県農林水産局長 富永 嘉文

水土里の探検隊2011

平成23年度第4次農林水産関係補正予算による新たな事業

広島県だより

土連だより

農地・水・環境 NEWS

田んぼの学校だより

こちら21創造運動事務局 ミニ掲示板



新年のごあいさつ



みどり
水土里ネットひろしま
 広島県土地改良事業団体連合会
 会長 羽田 皓

新年明けましておめでとうございます。

会員並びに関係者の皆様には、日頃より農業農村整備事業の円滑な推進、並びに本会の運営につきまして、格別なご理解とご支援を賜り心より厚くお礼申し上げます。

昨年は、3月11日に東北地方を襲った未曾有の地震や津波により、甚大な被害を受けた東日本大震災や、台風による豪雨災害により各地で多大な被害が発生するなど、災害や事故に相次いで見舞われた一年でありました。自然の持つ計り知れない力を痛感するとともに、被災されました皆様には心からお見舞い申し上げ、一刻も早い被災地の復旧と復興が進む事をお祈り申し上げます。

さて、農業・農村は、安全で安心な食料を安定的に供給し、豊かな自然環境や美しい景観の保全、伝統文化の継承など重要な役割を有しております。このように、農業・農村が持ちうる役割を存分に果たし、活力に満ちたものとなるよう本会では、力強い農業構造の確立に向けた農業生産基盤の整備と併せ、農村の生活環境向上の一助となる農業農村整備事業を積極的に推進して参ります。

また、農地や土地改良施設は、農業生産に大きな役割を果たすと同時に、地域にとっても重要な社会資本であり、膨大な土地改良施設を適正に維持管理し、優れた生産基盤である田や畑などの、農業資源を十分に有効活用する必要があります。

このためにも、農地や農業用施設並びに生活環境施設が安定的に機能を発揮できるよう、適切な保全管理に向けた対策や、農地や水、環境保全対策への取組み、土地改良区の運営指導・機能強化について、支援・協力して参る所存でございます。

本会を取り巻く状況は一層厳しさを増しておりますが、本会の役割と責任を十分に認識して、新たな時代の要請に応じた使命と責任を担う、農業・農村のさらなる発展のため、役職員一丸となって取り組んで参ります。

本年も一層のご支援とご協力を賜りますよう、お願い申し上げますとともに、皆様のますますのご発展とご健勝をお祈り申し上げまして、新年のごあいさつといたします。

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

平成二十四年元旦	監事	監事	代表 監事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	常務 理事	副会 長	副会 長	会 長
	荒田	小坂	小坂	田中	小村	五藤	牧野	滝口	竹下	浜田	吉田	眞野	下垣	山田	藏田
	晃	治	政司	達美	和年	康之	雄光	季彦	正彦	一義	隆行	勝弘	雅史	寛昭	義雄
他職員一同															羽田 皓

**広島県土地改良事業
 団体連合会**
 (水土里ネットひろしま)

新年のごあいさつ



広島県農林水産局長

富永嘉文

新年明けましておめでとうございます。

輝かしい新年をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

皆様には、平素から本県の農業・農村の振興に多大な御貢献を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、本県の農業農村は過疎化の進行に加え、担い手の減少や高齢化など依然として厳しい状況にあることから、農業が持つ強みを引き出し、新たな挑戦を行い、新たな活力を生み出さねばなりません。いうまでもなく、農業・農村は、安全で安心な食料の供給に加え、県土や環境の保全など、県民の豊かな暮らしを支える重要な役割を担っているため、農業・農村が果たすこれらの役割の持続的な発揮に向け、農業の競争力を強化し、再生していくための的確な対応が求められています。

こうしたことから、本県では、「2020広島県農林水産業チャレンジプラン」に基づき、「産業として自立できる農林水産業の確立」を最も重要な目標とし、「生産から販売までが一体となった持続的な農業の確立」などに向けた施策に全力で取り組んでいるところです。この中で、経営の大規模化や生産性向上を図るための基礎的な条件を整備する生産基盤整備の役割は、ますます重要であると考えております。

皆様におかれましても、農業農村整備事業の推進を通じて、本県の農業・農村の発展に一層の御尽力を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、皆様のますますの御発展と御健勝、御多幸をお祈り申し上げまして、新年のごあいさついたします。

平成24年1月



水土里の探検隊2011

のどかな農村をめぐり、秋の収穫を楽しむ!!

11月6日（日）、山県郡北広島町川戸周辺で水土里の探検隊2011が開催されました。

都市で生活している方たちに、ウォーキングを通じて農業・農村の役割や大切さの理解を深めてもらうことを目的に、「水土里の探検隊」として、ひろしま農業農村整備広報委員会（広島県及び水土里ネットひろしまで構成）と農事組合法人せんごくの里、(株)ハートランドひろしまの共催・協力、また北広島町の後援をいただき、57名が参加しての開催となりました。

当日はあいにくの雨模様となりましたが、色とりどりの傘に雨合羽の出で立ちが、物静かな秋の紅葉に華を添えたウォーキングとなりました。

午前8時に広島駅に集合し、受付を済ませた参加者は、バスに乗り込み北広島町へと向かいました。

9時半に到着し、吉川元春館跡で開会式が行われ、広島県農業基盤課の森光課長が主催者を代表して「広島県の食料自給率はカロリーベースで約23%と低いですが、この北広島町は、県内の中でも特に農業が盛んな地域で、米や野菜等多くの農産物を生産し広島市内等に出荷されている所です。今日一日農村を満喫してください。」と挨拶されました。



伊藤副町長 歓迎挨拶



広島県農業基盤課 森光課長
主催者挨拶

続いて後援いただいた北広島町の伊藤副町長が「北広島町は中山間地域であり自然の美しいところです。歩きながらの紅葉を楽しんでください。また、地元の特産品や新鮮な野菜はマイロード千代田で購入できるので、是非立寄ってください。」と北広島町の紹介を含め歓迎の挨拶

をいただきました。



ウォーキングスタート!

開会式後は、吉川元春館跡をスタートし万徳院跡歴史公園を目指してウォーキング。万徳院跡までの最初の15分はひたすら一本道の山道を登り続け、会話を楽しみながらのウォーキングは、息切れがするほどです。万徳院跡は、1574（天正2）年頃に、吉川元長（毛利元就の孫）が建立した寺院跡で、1991年度から始まった発掘調査で池庭跡・本堂跡・風呂屋跡・水道施設・竹製裏目物差しなど多くの遺構や遺跡が見つかるに伴い、寺院の建立で発揮された人々の様々な知恵や技術が明らかになりました。

特に湯釜で発生させた蒸気を風呂屋形という小部屋に引き込み、蒸気浴する蒸し風呂形式は、この時期の風呂屋跡の出土例としては2例目で、実際に使用できる唯一のものでした。



万徳院跡歴史公園でひと息

ここからは、ひたすら山道をくだり、舞綱集落到に到着。山道の右手を流れる川には頭首工が設けられ、「頭首工」は用水路の頭首部に設けられる施設で、用水路の最初の部分だから「頭首工」と呼ばれているらしい。などの豆知識も教わり、新たな側面から農業用施設への興味を持つことができました。

山道を抜けると目の前に広がる田園風景と色づきはじめて紅葉を目にしながら、集落の中心部を横断し、丘の上の舞網地区のほ場整備事業竣工記念碑を眺め、国道を横断したら川戸集落のゴールまで約2km。最後は汗だくになりながら全員が8kmを歩ききりました。



ほ場整備事業の竣工記念碑



広がる田園風景



国道を横断し、ゴールまであと2km

ウォーキングのあとは（株）ハートランドひろしまの見学です。生協ひろしまが設立した農業生産法人で、障害がある人の社会参加を支援し、10の方が農業や品質検査の業務で大きな力を発揮してくれることや、（農）せんごくの里で研修を受けさせてもらうなど地域の一員として受け入れていただいていることを代表の横山専務理事が説明されました。ハウスに入っただけの栽培見学では、フィールド養液栽培といって、軽石の上に種をまき、植物に必要な養分を液肥として与え、電気を使わず廃液を出さない環境保全型の栽培システムの説明を受けました。



ハウス栽培の説明（上）
横山専務理事 歓迎挨拶（左）



ハウス栽培の小松菜見学



白ねぎ、さともなどの直売

ハウス栽培している小松菜の直売では、あっという間に売り切れる盛況ぶりで、ウォーキング後の空腹感も拍車をかけ、昼食を準備していただいている川戸集会所へと急ぎました。

川戸地域では、農地・水・環境保全向上対策に取り組んでおり、（農）せんごくの里は、7区レンジャーの構成員として、「安心！広島ブランド」に認証されている特別栽培米（こしひかり）を栽培しています。昼食は、このお米を使ったおにぎり、地元で収穫した豆を加工したテンペを使った豚汁、キャベツや野菜を使った和え物、お漬物がふるまわれ、豚汁のおかわりに並ぶ人が絶えないほどでした。



豚汁のおかわりの列



地元の食材を使った手料理

参加者の箸を動かす手が少し落ち着いた頃、（農）せんごくの里の藤井代表理事より歓迎の挨拶や、テンペについて「煮た大豆をテンペ菌で発酵させたもので、たんぱく質等の栄養が発酵によって消化吸収されやすく、体に良い食品です。」とお話がありました。



(農) せんごくの里 藤井代表理事 歓迎挨拶

昼食時間を利用して、行きの車内で配付した広島県の農業に関するクイズの回答用紙の提出では、全問正解者には素敵なプレゼントが準備されていたためか、あちこちで話し合いながら考えている様子が見られました。また、「ひろしまの農村フォトコンテスト」の歴代の優秀作品も鑑賞してもらいました。

昼食後は、ほ場整備の取り組みや農業組合法人の説明を受けたり、大型農業機械の試乗体験では農業用機械に乗ったことのない参加者たちは、興味津々で運転の操作方法などを聞いたり写真に収めて、楽しんでいました。



農業用機械の説明



試乗体験



ほ場整備の説明

雨天のため、キャベツの収穫体験はできませんでしたが、予め収穫されていたキャベツを前に、収穫の方法や、農業を続けていくことの苦勞をお話され、参加者からの質問に、法人名「せんごくの里」の由来が昔「千石」の^{こくだか}右高だったことから来たことを教えていただきました。



閉会式 挨拶

収穫されたキャベツの持ち帰り

閉会式は、主催者を代表して水土里ネットひろしまの下垣副会長が、「雨の中準備をいただいた(農)せんごくの里、(株)ハートランドひろしまの方々へのお礼や、ご協力いただいた関係者のお陰で無事行事を終了することができました。」と感謝の意を伝えました。



全員で記念写真

立ち寄った「マイロード千代田」では、地元の特産品や新鮮な野菜を購入し、帰りの車内では、クイズの正解者の発表に一喜一憂。まさか当たるとは！！と驚く方もおられましたが、全問正解者が31人と、スタッフが舌を巻くほどの正解率の高さに驚きました。正解者には、(農)せんごくの里の玉ねぎがプレゼントされ、どんな料理にも大活躍する玉ねぎは、大変喜ばれました。参加者からは「法人について勉強になった。」「雨の中のウォーキングでしたが楽しかった。」「地元での農業の取り組みに感心した。」「また「土地改良施設について勉強したことがなく、理解不足だったことに反省しました。」などの回答が寄せられました。

平成23年度第4次農林水産関係補正予算による新たな事業

農業体質強化基盤整備促進事業

平成23年度の4次補正予算が平成23年12月20日に閣議決定され、持続可能な力強い農業の実現の取組として、「農業体質強化基盤整備事業【80,111百万円】」が創設されました。

この事業は、平成24年度の農林水産予算概算決定においても、「農業体質強化基盤整備事業【22,000百万円】」が新規事業として創設されています。

●平成23年度4次補正創設事業 「農業体質強化基盤整備促進事業」

政策目標 土地利用型農業について、平地で20～30ha、中山間地域で10～20haの規模の経営体が大宗を占める構造を目指す（平成28年度）

事業内容 1. きめ細かな基盤整備による農業の体質強化

すでに農地の区画が整備されている地域等において農地・農業水利施設の整備をきめ細かく実施し、経営規模の拡大や戦略作物・地域振興作物の生産を促進

①畦畔除去等による区画拡大や暗渠排水等の農地の整備

②老朽施設の更新、用排水機の増設等の農業水利施設の整備

2. 整備済み農地の高度利用を迅速・安価に推進するための定額助成の導入

自力施工等による農地区画の拡大や暗渠管設置といった簡易な二次的整備を定額助成によって促進

・簡易な区画拡大：10万円/10a等（水路の管水路化を伴う場合20万円/10a）

・標準的な暗渠排水（本暗渠の間隔10m以下）：15万円/10a

事業実施主体 都道府県、市町村、農業者等の組織する団体（土地改良区等）

補助率 定額、1／2等

農林水産省HP 平成23年度農林水産関係補正予算（第4号）の概要

http://www.maff.go.jp/j/budget/2011/23hosei_4.htmlより

●事業の仕組み

対象地域 戦略作物又は地域振興作物を生産する地域

作成計画 整備計画（土地利用型作物の場合は農地利用集積の方針を含む。）

地区設定 同じ用水系統又は同じ排水系統にある水利施設の受益範囲

ブロックローテーションの取組範囲

市町村の定める農業振興整備計画の範囲

都道府県の定める農業振興地域整備基本方針の地域区分の範囲 等

規模要件 事業費200万円以上／地区（※定率助成の事業の場合）

対象工種 農業用排水施設・暗渠排水・土層改良・区画整理・農作業道・農用地の保全

補助率 1/2、6法指定地域等55%、定額

事業実施期間 平成23～25年度

補助金交付ルート 国 → 都道府県

国 → 団体（市町村、農業者等団体）

国 → 都道府県 → 団体（市町村、農業者等団体）

地財措置 （4次補正）補正予算債

（24当初）都道府県：公共事業等債、市町村：一般補助施設整備等事業債



広島県だより

● 農業水利施設の長寿命化を図りましょう!!

挑戦そして実現!

ライフサイクルコストの低減を目指して ~ストックマネジメント研修を開催しました~ **一引き出せ、広島県の底力。**

1 概要と目的

- 広島県では、平成22年12月「2020広島県農林水産業チャレンジプラン」を策定し、「産業として自立できる農業」の実現に向けて取り組んでいます。
- また、持続的な農業生産を支える既存の農業水利施設について、「ストックマネジメント計画の策定」と「維持管理体制の強化」を推進し、適時適切な維持管理や補修を行うことによって、長寿命化をはじめ、維持管理費や補修費用などライフサイクルコストの低減を図ることを目指しています。
- この研修は、行政職員や施設管理者の理解を深めるとともに、適時適切な維持管理や調査診断に基づく施設状態の把握について、自らが実施できる能力を習得してもらうことを目的に開催しました。



2 研修日時と内容

【座学】平成23年10月26日（水）

- 97名 『農業水利施設のストックマネジメント概論』
- 『農業水利施設の機能保全対策・工種別』
- 『事業制度等について』
- 『仕組みづくり』

【現地】平成23年11月2日（水）～30日（水）

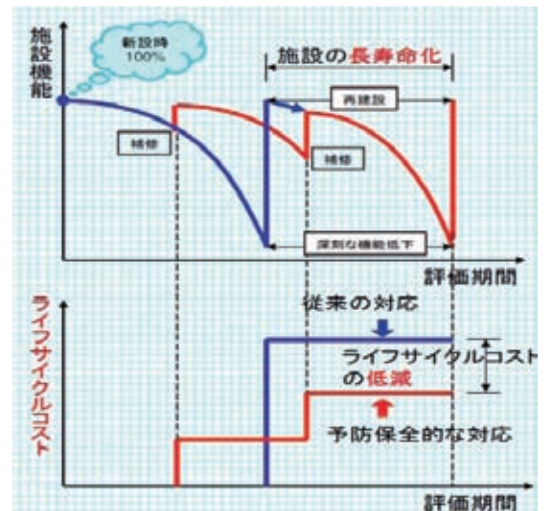
- 119名 『講師による調査診断・評価手法の実演』
- 『参加者による実務体験』

頭首工(ゲート)、揚・排水機場、水路など、のべ4日

↓座学では理論を学びました



↑参加者も体験しました



現地での解説・実演→

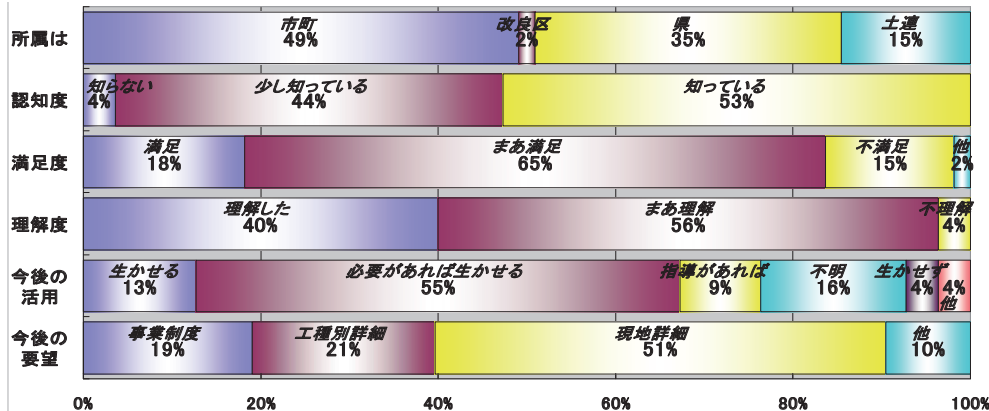


3 研修の成果と参加者の声

- ◎整備した施設が、集落法人等担い手の営農を根本から支えていることを再認識。その持続性確保には、施設の有効活用が必要で、我々が積極的にストマネに関わる責任があると感じた。
- ◎地元の施設管理者から、維持管理の話を直接聞くことができ、機能維持の苦労を感じた。
- ◎造成した施設が、時間経過とともに劣化していく様子を見て、適正管理の重要性が良くわかった。
- ◎現地研修により、理論と実地を結びつけて理解することができた。
- ◎実務体験で今後のストックマネジメント実施の基礎を築くことができた。
- ◎農地・水保全管理支払により周辺農地・施設が良好に管理されている様子がよくわかった。

- 参加者アンケートでは、研修の理解度・満足度も高率でした。
 ○今後の活用について、理解度とは直結しないことがわかりました。
 ○一方、工種別詳細や実践手法を聞きたいとした人が多く、高い実行意欲を示しています。

■参加者アンケート(座学のみ)



紙面をお借りし、研修に協力いただいた関係者の皆様に、厚く御礼申し上げます

4 今後の取組

～ストックマネジメントの普及啓発・理解促進と、実践につなげるため～

- 市町・土地改良区・管理者の皆さんへの研修を継続的に開催します。
- 現地研修により調査診断・評価の技術の向上を図ります。
- 県は、市町や土連と連携し管理者の皆さんを支援していきます。

参加をお待ちしています

●平成23年度集落法人成長戦略研修会を開催!!

～経営発展に向けた法人協の目指すべき方向～

- 平成23年12月21日（水）、広島県民文化センターにおいて、集落法人等関係者198名の参加により、平成23年度集落法人成長戦略研修会が開催されました。
- 県内の集落法人が満足する法人協活動や、外部への情報発信が出来る活動が求められていることから、新たな活動を展開するために作成した「法人協中期ビジョン」について、作成委員長の福永要さんから報告がありました。
- パネルディスカッションでは「集落法人の羅針盤～今後の法人協活動を語る～」と題し、中期ビジョンの理念や、いままでの活動にはなかった新たなアイデアが具体化されることによって、法人経営にどのような効果をもたらされるか議論されました。
- 分科会では「経営戦略と組織の活性化」「売れる農産物づくりのために」「加工商品の開発ノウハウ」「自分の持ち味を生かしたチームビルディング」の4分野にわかれ、専門アドバイザーの講演を聞いたあと、参加者によるグループ討議を行いました。
- 各法人の先進的な取組みや、経営の課題・悩みについて意見交換し相互に共有することで、経営の安定と高度化へ向けた取組みへの意欲を新たにすることができました。



集落法人で 楽しい農業

かな 材で築く 地域の未来



パネルディスカッション



アドバイザーの講演



白熱したグループ討議

※「法人協」とは、「広島県集落法人連絡協議会」のことで、広島県内の集落法人の連携を強化し、経営の発展と安定を目指すとともに、新規の法人設立を支援する目的で設置された組織です。
 ※「集落法人」とは、集落の農地の所有と利用を分離し、担い手となる農業法人に農地を集積することで、効率的・持続的な農業経営を行う法人のことです。



士連だより

●広島県農業農村整備事業推進協議会 平成23年度 第1回役員会

11月14日（月）、広島県土地改良会館で広島県農業農村整備事業推進協議会が開催されました。本協議会は、前身の広島県営耕地事業推進連盟を母体として、広島県農業集落排水事業推進協議会を統合し、本年4月に改組されました。滝口季彦会長（庄原市長）が「農業の持続的な発展と農村の持つ多面的機能を十分に発揮させるためには、着実な農業農村整備事業の推進が必要不可欠。」と挨拶された後、「平成22年度事業報告及び収支決算」、「平成23年度事業中間報告、収支予算の補正」の2議案について審議を行い、原案どおり承認されました。



●平成24年度農業農村整備事業の予算確保に向けた広島県への提案活動

11月14日（月）、広島県庁において「2020広島県農林水産事業チャレンジプラン」に掲げられている『具体的な施策』を実行するため、広島県農業農村整備事業推進協議会の滝口会長（庄原市長）ほか役員12名が広島県知事、農林水産局長及び広島県議会へ農業農村整備事業の推進について提案活動を行いました。

【提案事項】

1. 競争力強化のための農地整備の推進
2. 農業用施設の補修・更新の推進
3. 危険ため池の早期改修の促進
4. 農村生活環境施設の長寿命化の推進
5. 農地・水・環境保全向上対策の推進



湯崎知事、富永農林水産局長に提案活動のようす



●東日本大震災応援派遣報告

茨城県の農業用施設災害査定設計書作成応援

東北地方太平洋沖地震では、茨城県においても全域に亘って大被害を蒙り、農地・農業用施設の被害は予想では約1,500地区295億円超とのことでした。

この災害の復旧について、茨城県土地改良事業団体連合会から技術者応援の依頼があったため、次のとおり約2ヶ月の間に月2名、計4名の技術者を派遣しました。

- 派遣場所 茨城県土地改良事業団体連合会 県北事業所
- 派遣期間 平成23年8月29日から10月31日まで
- 応援内容 現地調査、測量、査定設計書作成
- 派遣者数 8月29日～ 9月29日：2名（新谷、西本）
9月29日～ 10月28日：2名（河村、林）

今回の震災では、茨城県の南東部の北浦に面した水田地帯において、供用後40年以上が経過した石綿管で整備された農業用パイプラインの多くが破損しており、この度の応援はこれらのパイプラインの査定設計書作成を主に行いました。

今後の1日も早い復旧と復興を心よりお祈り申し上げます。



農地・水・環境 NEWS

広島県農地・水・農村環境保全協議会

◆農地・水保全管理支払交付金（共同活動支援）研修会を開催

11月21日（月）、22日（火）の2日間、広島市中区の土地改良会館において、農地・水保全管理支払交付金（共同活動支援）研修会が開催されました。最初に県協議会の下垣雅史会長より「農地・水環境保全向上対策は本年度で5年目となり、県内126の組織が取り組まれている。平成24年度の国の予算概算要求の中に、次期対策として本対策が盛り込まれている。」と述べられました。

両日あわせて150名の方が受講され、水路等の目地補修や、水田畦畔へのグランドカバープランツや景観形成作物の導入について、植栽から管理まで事例を含めた紹介、また広島県から交付金等の事務処理について再度確認が行われました。



下垣協議会長 挨拶



水路等の補修の説明後、実地講習



研修会のようす

◆～農地・水・環境保全向上対策事例集の発行間近！～



広島県農地・水・農村環境保全協議会から、「未来に伝えよう水・土・里の文化」と題して、県内の農地・水・環境保全向上対策に取り組まれている126組織を対象とした活動を紹介した事例集が発行されます。活動のさらなる活用にお役立てください。

サイズ：A4サイズ 160ページ

発行：3月上旬予定

【問い合わせ先】 電話 082-502-7476

広島県農地・水・農村環境保全協議会事務局

パンフレット表紙

◆土地改良区の運営合理化のために 農業基盤整備資金がご利用いただけます！

土地改良区の事務の運営合理化や土地改良施設の維持管理のために行う事業であって、「土地改良施設の整備事業及び維持管理事業」に該当するものは、補助・非補助を問わず、農業基盤整備資金がご利用いただけます。

水管理の集中化による維持管理費の削減

頭首工、揚水機場、分水工の水位・流量等の情報を収集し、的確な操作指示を行う集中管理施設の設置
かん水手動バルブを自動バルブに入れ替え、集中管理する施設の設置

事務OA化による経費削減

OAシステム化の整備（賦課金徴収システム、償還金システム、積立金システム等の開発・ハードウェア整備など）
※ソフトウェアの導入のみは不可

集中計算施設の設置による経費削減

賦課金額を水使用量に比例させる場合の賦課金額自動計算のための集中計算機の設置と水栓バルブに付設するメーターの設置

施設・用水の多目的利用

農業用水を利用した小水力発電施設（自家発電による電力料の削減）の設置による受益者負担の軽減

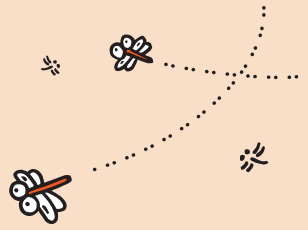
●融資条件 償還期限：25年以内（うち据置期間10年以内）

融資限度額：負担額の全額 ※借入れ可能な最低限度額は50万円

金利：借入れ時の金利は金融情勢により変動します。

【問い合わせ先】 電話 082-502-7476 地域支援課

田んぼの学校だよ



三原市立神田東小学校では、9月の稲刈り、脱穀に続き、10月11日には、芋ほり体験を行いました。今年のサツマイモはとても良く太った芋の収穫ができました。

5年生の稲葉克宏くんは、畑を借りている沖谷さんに感謝しながらの収穫となったようですが、あまり水やりをしなかったため、大きくなっているのかドキドキしながら収穫に臨んだようです。畑に行くと収穫してみると沢山あって、掘りはじめて最初の芋が、約20cmととても大きく驚いたと言っていました。

10月21日には、育てたもち米で餅つきを行うほか、サツマイモなどを使った料理を、お世話になった地元の人々を招いて振舞い、お礼と感謝を込め収穫祭を行いました。

また、11月13日の学習発表会では、児童全員で一年間の活動報告を兼ね、「田んぼの学校」で命と向き合った発表が行われました。「命はね 米一粒にもあるんだよ」をテーマに5月の「泥んこ運動会」や「牛の代掻き体験」にはじまり、田植え、除草、鎌を使った稲刈りと稲木がけ（はで干し）、脚踏み千歯こぎによる脱穀などを通じた感動を俳句形式で読み上げ「田んぼはね いろんな虫の すみかだよ」、「米作り 汗や苦勞が いっぱいだ」などの一年間の学びを発表していました。



こちら 21 創造運動事務局

≡二揭示版

11月19日（土）、水土里ネット祇園町外二ヶ町主催の八木用水ウォーキングが55名の参加により行われました。当日は雨のため、旧取水口へと向かう昔ながらの道を歩くことは叶いませんでしたが、樋門や除塵機の見学、また、今年はウォーキングルートの途中にある緑井地区の氏神様として崇拝される「宇那木神社」に立寄り、神社の由来や由緒、周辺を流れる水路網などを教えていただき、また一つ地域の財産を知ることのできたウォーキングとなりました。



宇那木神社を見学



水路沿いをウォーキング



水土里ネットスタッフも一緒に記念写真



住みやすく豊かな村づくり
みどり
水土里ネットひろしま

季刊 ひろしまの土地改良 第228号

- 平成 24 年 1 月 15 日
- 編集：ひろしま農業農村整備広報委員会
- 発行：広島県土地改良事業団体連合会
〒730-0017 広島市中区鉄砲町 4-1 広島県土地改良会館
- TEL (082) 502-7470 ■ FAX (082) 502-7480
- http://www.hdn.or.jp
- 印刷：佐々木印刷株式会社